

令和7年度第2回高知県歯と口の健康づくり推進協議会 議事要旨

- 1 【日時】 令和8年2月18日（水）19時00分～20時30分
- 2 【場所】 高知県歯科医師会館 会議室1.2
- 3 【出席者】 協議会委員出席15名、欠席5名、傍聴席1名
事務局13名（うち、健康政策部1名、保健政策課5名、障害福祉課1名、在宅療養推進課1名、長寿社会課1名、福祉保健所4名）

4 協議事項

- (1) 令和7年度の実績及び課題、令和8年度の実績予定について
- (2) 歯科保健地域連絡会における協議について
- (3) その他

議題

- (1) 令和7年度の実績及び課題、令和8年度の実績予定について
 - 子どもの歯と口の発達
 - 歯肉炎・歯周炎の予防
 - ・委員から、歯周病保健指導実施委託業務について、評価・課題に「18歳以上である大学生や専門学生にはこれまで事業で展開できていない」とあるが、思春期において生涯にわたる心身の健康づくりは大事な時期であると思っている。特に学校の保健活動、保健指導の中で睡眠やメディア等の学習もしているが、歯と口の健康については学習する機会があまり多くなく、生活習慣によっては非常に大きな影響を受ける生活習慣病の1つでもあると思っている。所属校でも20%の子どもが歯周疾患に関することで受診勧奨の対象となっており、中学生を対象にした啓発活動や保健指導等をしていただけると、思春期のときから意識を向けることができ、大事だと感じる。次年度以降、何か検討いただき、例えば年間5校程度とかで支援をいただけるとありがたいとの意見があった。
 - ・委員から、高知市では、歯肉炎予防として、高知学園短期大学に協力いただき、歯の交換期で歯肉炎が始まる小学3、4年生と、中学1年生に対して、学生に歯科保健指導をしていただいている。学生の授業の一環で行っていただき、高知市内の小中学校約7割、中学校4校がこの事業を活用している。学生は3、4人のグループで1クラスに入り、1時間授業を実施している。指導内容については保健所と短期大学の先生で相談しながら取り組んでおり、小学校に関しては学生による指導実施後、資材等を提供し、学校で復習をしていただくようにしている。直接指導ができない場合においても、学校で指導できるツール等を助言することで、養護教諭も取り組めるのではないかと思うとの発言があった。
 - ・委員から、乳幼児や小学校低学年の子どものかむ力が非常に弱くなっていることから、福岡県では、かむ力をチェックして、歯ぐきの状態を調べていくというような取り組みをし

ているとテレビで報道されていた。今年の健口 DAY で実施された咀嚼能力検査のようなものがさらに普及すると、子どもたちのかむ力が強くなるのではないかと思う。福岡県でも、咀嚼が必要な生野菜の残渣が給食で多く、子どもも積極的に食べないとのことだった。かむ力が弱いと、永久歯の歯並びにも影響が出て、歯みがきがきれいでできないということにも繋がるのではないかと思う。「咀嚼」についても、もう少し力を入れた方がいいと思うとの意見があった。

- ・委員から、ベビーフードが広がり、子どもの離乳食が完了する時期がとても遅くなっていると、保育現場で感じている。柔らかいもの、誤嚥の少ないベビーフードを食べることが多く、徐々に硬い食べ物をかじり取るということが分からない保護者もいる。何歳になったら、何ヶ月になったらどのくらいの硬さの食べ物にしてみるといった情報を健診等で教えていただけたら、保護者の方も分かりやすいと思うとの意見があった。
- ・委員から、フッ化物洗口実施率について、徐々に増加傾向にあるが、南国市の実施率が伸び悩んでいるイメージがある。何か理由はあるのかとの質問があり、事務局から、新型コロナウイルス感染症前に実施に向けて物品の準備や教職員への説明会等を実施していたが、大規模校と小規模校で児童・生徒数にも差があり、新型コロナウイルスの影響で一旦中止になった現状が今も続いている。教育委員会とも協議を重ね、まずは保育園、幼稚園から実施し、その後学校まで実施を拡大していく方針で取り組みを進めているところ。昨年度まで、南国市の全公立保育所で実施に向けて取り組みを進め、実施に繋がったが、法人や私立施設は実施が進んでいないのが現状と回答した。回答に対し、委員から、地域的なこともあるかもしれないが、高知県保幼小中校 PTA 連合体は保育園から高校まで教育委員会と一緒に取り組みを進めているため、PR や周知に関することで協力できればと発言があった。
- ・委員から、フッ化物洗口の実施率について、施設実施率に限らず、実際に洗口に取り組んでいる人数の割合を算出する必要があるとの意見があり、事務局から、全市町村の各施設におけるフッ化物洗口対象者数及び実施人数の調査を今回初めて行っており、回答内容を取りまとめているところ。これまで1回目の協議会で小学生のフッ化物洗口実施人数の割合を報告していたが、来年度の1回目の協議会では、小学生だけでなく、中学生等についても整理し、報告できればと考えていると回答した。

●生活の質の向上に向けた口腔機能の維持・向上

- ・委員から、地域ケア会議について、医師だけでなく、歯科医師や歯科衛生士にも参加いただくことで、対応の幅が広がっていると実感している。各地域のケア会議に歯科専門職も積極的に参加いただきたいとの発言があった。
- ・委員から、フレイルチェッカーについて、オーラルフレイルに関する内容はどのくらい入っているのかとの質問があり、事務局から、後期高齢者の15問の質問票をもとに質問内容を作成しており、その中にある、かむ等の口腔機能に関する項目はフレイルチェ

ッカーに含めていると回答した。

- ・委員から、「通いの場等でできるオーラルフレイル予防マニュアル」について、活用している市町村の反響やオーラルフレイル対策勉強会の出席状況等を教えて欲しいとの意見があり、事務局から、「通いの場等でできるオーラルフレイル予防マニュアル」については、昨年度活用状況調査を実施した中で、多くの自治体で活用いただき、複合的にオーラルフレイル予防対策を実施している自治体もあれば、一部マニュアルから抜粋し、既存の市町村事業に併せて実施いただいている自治体もあることが分かった。オーラルフレイル対策勉強会については、34名の方にご参加いただき、実技研修として参加者の皆さんと工作やゲームを一緒に行うという初めての試みで開催した。多くの参加者から、「機会があれば通いの場等で作ってみたい」等、勉強会の内容を今後取り入れたいという前向きな感想をいただけたと回答した。

●障害者の歯科治療の推進

- ・委員から、重度心身障害児・者歯科診療事業について、マンパワー不足の影響が出ている。若い歯科医師が2名診療に入ってきてくれ、令和4年から始まった全身麻酔下の症例は71症例まできた。今は障害児・者だけでなく、歯科恐怖症の方も診療を全身麻酔下で実施している事例もあるため、高知県と協力して、またマスコミ、メディアと協力して、周知して欲しいとの意見があった。

●在宅歯科医療の推進

- ・委員から、在宅医療の場において、歯科医師に参入してもらうことで、義歯や口腔内環境が安定しつつある。口腔ケアや摂食嚥下について、スタッフも勉強になっている。在宅だけでなく、高齢者施設へも歯科専門職に積極的参入をお願いしたいとの意見があった。
- ・委員から、各地域で治療に結びつくように尽力いただいている。検討会等も開催しているが、地域にもよるがマンパワー不足になっているとの意見がよくあがる。地域住民のためにも知恵を絞って何らかの解決をしていく必要があるとの意見があった。

●災害時歯科保健医療対策

- ・意見なし。

●歯科衛生士養成奨学金

- ・意見なし。

●人材育成（行政歯科衛生士等育成研修会）

- ・意見なし。

●高知県歯と口の健康づくり実態調査

- ・意見なし

（２）地域歯科保健連絡会における協議について

- ・委員から、妊婦に対し、助産師が全戸訪問し、健診受診について確認と声かけをしている地域があると報告にあったが、他の地域でも実施されているのかとの質問があり、事務局から、報告した地域は出産数や妊婦数が少ないことから全戸訪問できるが、他の地域で展開することは難しいと思うが、あらゆる機会で色々な職種から啓発することは、受診に繋がると考えると回答した。

（３）その他

- ・委員から、今度の診療報酬改定で地域歯科医療加算が新設され、都道府県等と連携して実施する歯科巡回診療車を用いた巡回診療について評価が行われるとのことだが、情報をつかんで何か進んでいるのだろうかとの発言があり、委員から、高知県も災害時歯科保健医療体制に対して巡回診療車の整備希望を出すところ。平時に巡回診療で活用した場合、治療行為が保険請求できないことが課題である。今回の診療報酬の改定が一つの道筋になるのではないかと思うとの発言があった。

以上をもって、20時30分に閉会した。